



# ヒドラジン

型式 WAK-HYD

*p*-ジメチルアミノベンズアルデヒド比色法による  
*p*-Dimethylaminobenzaldehyde Visual Colorimetric Method

主試薬 *p*-ジメチルアミノベンズアルデヒド

測定範囲  $\text{N}_2\text{H}_4$  0.05~2 mg/L(ppm)

GHSマーク

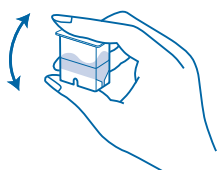


危険

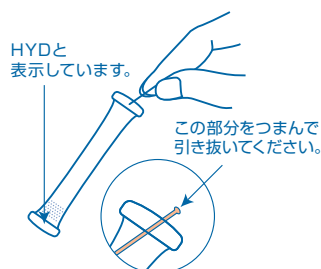
## 測り方



① 検水を専用カップの線(1.5mL)まで入れ、滴ピンのK-1試薬を2滴(約0.13mL)加えます。



② 蓋をして2~3回振ります。

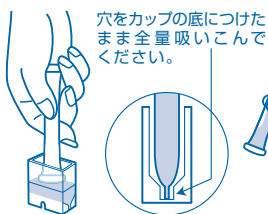


③ チューブ先端のラインを引き抜きます。



④ 穴を上にして、指でチューブの下半分を強くつまみ、中の空気を追い出します。

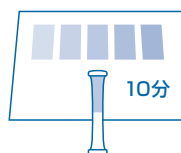
⑤ そのまま穴を検水の中に入れ、つまんだ指をゆるめ、全量吸い込みます。液がもれないようにかるく5~6回振り混ぜます。



穴をカップの底につけたまま全量吸いこんでください。



⑥ 10分後にチューブを標準色の上のせて比色します。



デジタルパックテスト、デジタルパックテスト・マルチSPでも測定可能です。

## 比色と測定値の読み方

指定時間後にチューブ内の水の色を標準色と比べ、一番近い色の値がその検水の測定値になります。標準色の色と色の間の場合は、だいたいの中間の値を読んでください。

## パックテスト使用前、使用後の取扱い注意

**K-1試薬および測定後のチューブの内容物は強酸性です。**

### 応急措置

内容物が目に入ってしまったら → すぐに15分以上、水で洗い流してください。  
痛みや異常がなくても直後に必ず眼科医の診断を受けてください。  
内容物が皮膚や衣服にふれたら → すぐに水で洗い流してください。  
内容物が口に入ってしまったら → すぐに水で口の中を洗い流してください。  
内容物を飲み込んだり、上記の措置後に異常がある場合には、すぐに医師の診断を受けてください。  
試薬の有害性については外箱背面の「GHSに基づく表示」をご参照ください。

### 保管

ラミネート包装を開封した後は、なるべく早くご使用ください。また、ラミネート包装を切ると、試薬の臭いがします。周囲に臭いが移りますので、ご注意ください。他のパックテストに近付けると劣化の原因になりますので、離して保管してください。

### 廃棄

事業活動で使用する場合は、各関係法令に従って適切に廃棄してください。  
それ以外の場合は、チューブや滴ピン等はそのまま「燃やすゴミ」としての廃棄も推奨しています。

### 試薬に関するお知らせ

K-1試薬は硫酸を含んでおり、取扱い者へのSDSの提供を義務づけた「労働安全衛生法 施行令 名称等を表示し、または通知すべき危険物及び有害物」、「労働安全衛生法 特定化学物質 第3類物質」に該当します。なお、「PRTR法」、「毒物及び劇物取締法」には該当しません。



株式会社 **共立理化学研究所**  
KYORITSU CHEMICAL-CHECK Lab., Corp.

〒145-0071 東京都大田区田園調布5-37-11  
TEL:03-3721-9207 FAX:03-3721-0666  
<http://kyoritsu-lab.co.jp> [kyoritsu@kyoritsu-lab.co.jp](mailto:kyoritsu@kyoritsu-lab.co.jp)

## バックテスト ヒドラジン

### 特徴

この製品は、JIS B 8224(ボイラの給水及びボイラ水—試験方法) 20.2 *p*-ジメチルアミノベンズアルデヒド吸光光度法の発色原理を用いており、ボイラ水をはじめ、いろいろな検水中のヒドラジン(N<sub>2</sub>H<sub>4</sub>) [ヒドラジニウムイオン(N<sub>2</sub>H<sub>5</sub><sup>+</sup>)]を簡単な操作で測定することができます。

細かい測定値が知りたい場合は、デジタルバックテスト(型式 DPM2-HYD)、デジタルバックテスト・マルチSP(型式 DPM-MTSP)をご利用ください。

なお、バックテストとは測定範囲、反応時間、共存物質の影響が若干異なりますのでお問い合わせください。

### 注意

1. 発色時のpHは、2以下です。pHが9以上の検水は希硫酸等で中和してから測定してください。
2. 100mg/Lのヒドラジン標準液では、橙～赤色の異常発色を生じます。高濃度が予想される場合には、あらかじめ希釈してから測定してください。
3. 1回で検水を全量吸い込めなかった時には、穴を上にして空気を追い出し、もう一度やりなおしてください。
4. 比色する時に、多少試薬が溶解せずに残っていても測定には影響ありません。
5. 検水の温度は15～40℃で測定してください。水温が低いと発色に時間がかかります。
6. 比色は屋光で行なってください。直射日光や一部の蛍光灯、水銀灯、LEDでは比色が困難になることがあります。
7. 発色後にラインをチューブ先端の穴に戻すと、チューブ内の水がもれなくなります。

### 共存物質の影響

標準色は、標準液を用いて作成しています。他の物質の影響が考えられる場合は、公定法と比較するか、標準添加法により測定値を確認してください。下記は、標準液に単一の物質を添加した場合の発色への影響データです。

1000mg/L 以下は影響しない	…	Al <sup>3+</sup> 、As <sup>3+</sup> (亜砒酸)、B <sup>3+</sup> (ほう酸)、Ca <sup>2+</sup> 、Cd <sup>2+</sup> 、Cl <sup>-</sup> 、CN <sup>-</sup> 、Cr <sup>3+</sup> 、F <sup>-</sup> 、Fe <sup>2+</sup> 、I <sup>-</sup> 、K <sup>+</sup> 、Mg <sup>2+</sup> 、Mn <sup>2+</sup> 、Mo <sup>6+</sup> (モリブデン酸)、Na <sup>+</sup> 、NH <sub>4</sub> <sup>+</sup> 、Ni <sup>2+</sup> 、NO <sub>3</sub> <sup>-</sup> 、Pb <sup>2+</sup> 、PO <sub>4</sub> <sup>3-</sup> 、Sn <sup>2+</sup> 、SO <sub>3</sub> <sup>2-</sup> 、SO <sub>4</sub> <sup>2-</sup> 、Zn <sup>2+</sup> 、シリカ、フェノール
250mg/L	//	… Co <sup>2+</sup> 、Cu <sup>2+</sup>
20mg/L	//	… Ba <sup>2+</sup>
少しでも影響する	…	Cr <sup>6+</sup> (クロム酸)、Fe <sup>3+</sup> 、NO <sub>2</sub> <sup>-</sup> 、V <sup>5+</sup> (バナジン酸)、残留塩素

海水は影響しません。

酸化性物質が影響する場合があります。